



知床科学委員会 しんぶん

河川工作物 アドバイザー会議 No. 1

知床世界自然遺産地
域科学委員会

エコシカ・陸上生態系
ワーキンググループ

海域ワーキンググループ

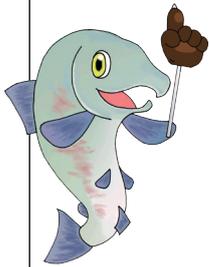
適正利用・エコツーリズム
検討会議

河川工作物
アドバイザー会議

ヒグマ保護管理方針
検討会議

河川工作物 アドバイザー会議って？

知床はサケの遡上に代表される海と森のつながりが評価されて、世界自然遺産に登録されました。一方で、土砂災害を防ぐためにダムが作られてきましたが、これらはサケが遡上する障害にもなっています。河川工作物アドバイザー会議では、災害から生活を守りながらサケも遡上できるように、防災やサケの専門家が行政機関に対して、ダムの改良工事やサケの遡上調査について助言をしています。



▲ 改良後のダムを遡上するカラフトマス (斜里町ルシャ川 越野陽介撮影)

今回の 会議

6月23日に羅臼川(羅臼町)とイワウベツ川(斜里町)で現地検討会を行い、24日に斜里町産業会館で漁業関係者の方も交えて意見交換会を開きました。

構成 メンバー

中村 太士	【座長】	(北海道大学	教授)
帰山 雅秀		(北海道大学	教授)
小宮山英重		(野生鮭研究所	所長)
妹尾 優二		(流域生態研究所	所長)
丸谷 知己		(北海道大学	教授)

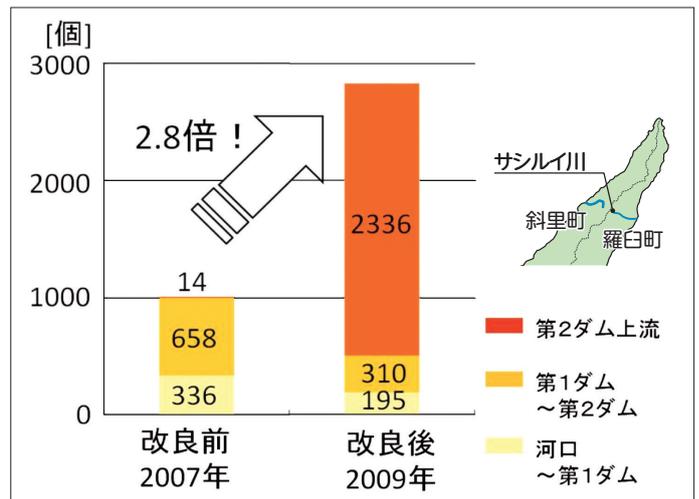
必見! TOPIC

サケは遡上しやすくなったの？

改良前に比べて、たくさんのサケがダムの上流まで遡上し、産卵床を作るようになりました。産卵床というのは、サケが川底を掘って卵を産み、埋め戻した場所のことです。羅臼町のサシルイ川では、4年前にサケのがぼりやすいように魚道の改良を行いました。改良後に行った調査からは、これまでダムの手前で産卵していたサケが上流で産卵するようになり、産卵床の数も増えたことがわかっています。



▲ シロザケの産卵床 (羅臼町サシルイ川 2007年12月)



▲ 上流域におけるカラフトマスの産卵床数の増加 (羅臼町サシルイ川)

今回
話し合った
こと

- 羅臼川（羅臼町）における砂防ダムの改良工事について
- イワウベツ川（斜里町）における治山ダム改良の効果について
- サケに関する長期モニタリングについて



今年度のダム改良工事について

世界遺産の区域内を流れる5河川で、13基のダムを改良することを目標にしましたが、順次改良が進み、残すところあと1基となりました。

今年度は羅臼川のビジターセンター前にある砂防ダムでスリット（切り込み）を入れる工事を進めています。

砂防ダムのスリット化工事（羅臼町羅臼川 2011年7月）▶



サケも大事、生活も大事

今回の現地検討会では、ダムの上流に堆積している土砂をどのように処理していくのかという意見がでました。ダムにスリットを入れた後に、堆積していた土砂をそのままにしておくと、海が濁ることも心配されます。しかしながら、漁業関係の方々にも検討していただいた結果、サケの産卵環境には上流から小さな砂利が流れてくることが必要であり、堆積している土砂は濁りの少ない粗いものであることから、自然に任せて流すことにしました。



▲ 現地検討会の様子（斜里町赤イ川）



10月15日に第3回しれとこ科学教室が開かれます！

河川と森林の関わりについて長年研究・実践してきた北海道大学農学部の中村太士教授が、「海と森のつながりを取り戻せ！」と題して、斜里町イワウベツ川の現地でダム改良の方法やその効果についてお話しします。斜里町のイワウベツ川では、5年前から計6基のダムの改良工事が行われ、昨年の秋にすべての工事が終わりました。今年9月に行った調査では、改良を行ったダムの上流までサケが遡上している様子が確認されています。みなさまのご参加をお待ちしています。

カラフトマスの遡上状況
（斜里町イワウベツ川 2011年9月）▶



■ 問合せ先 ■

北海道森林管理局 企画調整部 保全調整課
〒064-8537
札幌市中央区宮の森3条7丁目70番
ダイヤルイン：011-622-5231
FAX：011-622-5194

■ 発行：林野庁北海道森林管理局
■ 制作：株式会社エコニクス
■ 発行日：2011年10月8日



- 日時：10月15日（土） 13:00～16:00
- 集合場所：岩尾別ユースホステル（斜里町字岩尾別）
- 参加費：無料

* 事前申し込みが必要です。詳しい点は、

知床財団 (0152-24-2114)

まで、お問い合わせください。